

保険者の取組事例の構造化について

保険者の取組事例の構造化

【構造化とは】

保健事業をどのような方法・体制で行うと健康課題の解決につながるのかを明らかにするため、健康課題や健康課題を解決するための方法・体制の工夫等を同じ様式に整理し、見える化することを指します。

【保健事業カルテとは】

地域や職場における健康課題に対する「健康課題の解決度を測る評価指標の設定」や「方法・体制の工夫」を記入する様式として東京大学が開発しました。

保健事業カルテ記入後にヒアリングを行い、ヒアリング後に加筆・整理することを通じて、保健事業の改善につなげることを目的としています。

助言者

東京大学未来ビジョン研究センター
データヘルス研究ユニット 特任教授 古井 祐司 氏

（参考）保険者の取組

令和4年度実施 保健事業カルテ一部抜粋

特定健診

- 受診勧奨を行う際は**ターゲットを絞る**。（2年連続未受診者など）
- 健診機関を選定するときは、特定保健指導の当日初回面接を実施できるかを重視する。
- 糖尿病・高血圧症・脂質異常症の医療機関未受診者へ受診勧奨（電話/郵送）。
 - 適切な治療を受けてもらうことで、指導対象者割合を減らす。
 - ⇒勧奨の媒体（電話/郵送）による受診率の検証結果は今後の事業設計につながる知見となる。

保健指導

- 前年度の特定保健指導**対象者をリスト化**し、健診終了直後に保健指導へつなげるよう案内している（直営健診センター）。
- 改善意識が途切れたり指導が途中終了しないよう、**定期的に**（初回面接後は2週間後、以降月1回）連絡をする。

重症化予防

- 保健指導参加者が脱落しないよう（完了者を増やすため）に、**月1の電話連絡**で状況確認。
 - 参加者のモチベーション維持、向上につながった。
- 委託している保健指導の**初回面接へ担当者が同行**することで、実際の指導（委託）内容について確認。
 - 委託業者の事業評価に繋がる。また、参加者から直接、参加のきっかけや動機を聞くことができる。

⇒様々なノウハウを蓄積し、情報の横展開を行います。

取組内容・進捗

① 参加保険者の選定

取組テーマ及び令和5年度参加保険者

- 特定健康診査：デパート健康保険組合
- 特定保健指導：NXグループ健康保険組合、東京建設業国民健康保険組合
- 生活習慣病重症化予防※：文京区、ジェイアールグループ健康保険組合
※令和4年度までは「糖尿病性腎症重症化予防」の名称で実施。

② 参加保険者へ保健事業カルテの趣旨・内容の説明

（保健事業の構造化及び保健事業カルテの説明会 ― 8月24日開催、講師：古井祐司氏）

③ 保健事業カルテの記載

保健事業カルテについては、別添参照

④ 助言者による訪問ヒアリング（各1回訪問、1～2時間程度）

⑤ ヒアリング結果を反映した内容保健事業カルテ（助言者の講評有り）について、 各会議等での報告や東京都保険者協議会ホームページでの公開を行う。

済

実施中

年間スケジュール(予定)

	令和5年			令和6年
	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
保険者協議会		7月 進捗状況報告	12月 進捗状況報告	
部会	6月 進捗状況報告		10～11月 進捗状況報告	
事業実施の流れ	①	② ③	④ ⑤	